

変形性膝関節症③

今回は変形性膝関節症の手術治療についてお話したいと思います。手術治療は保存的治療で症状が良くならない場合、日常生活が著しく制限される場合に選択されます。手術治療には次のようなものがあります。

1) 関節鏡視下デブリドマン

膝関節のなかを関節鏡で観察し、痛みの原因となっている滑膜や傷んだ半月板を除去します。この手術により、一定期間膝が腫れにくくなり痛みが軽減します。この手術の利点は、患者さんにかかる負担が最も小さく、痛みの原因も明らかになることです。ただし、すり減った軟骨の再生は困難であり、除痛の効果は永続的ではないといった欠点があります。

2) 高位脛骨骨切り術

高齢者の多くは膝が内反変形（O脚）しており、膝の内側に体重がかかっています。このため、膝の内側の軟骨がすり減る傾向にあり、内側に痛みが出やすいです。脛骨（すねの骨）を膝近くで一部骨切りし、この荷重方向を外側に移してあげるのがこの手術です。この手術の利点は、自分の膝関節を温存し、除痛と機能改善が期待できることです。関節鏡視下デブリドマンに比べて、長期間除痛を期待できますが、膝関節の外側の傷みが強い症例には向かないことや骨切りした部分の骨がくっつくまで体重を全部かけることができない等の欠点があります。また、片方の手術だけでは両下肢の長さが合わず、両方の手術が必要になることがあります。

3) 人工膝関節置換術

文字通り人工の膝関節に置き換える手術です。人工のものという怖いイメージがあり敬遠しがちな人が多いですが、生体内でも安全なコバルトクロム合金やセラミックス材料が使われており、10年間の術後長期成績は最も安定した手術です。除痛効果は最も高いですが、耐久年数の制限や感染などの欠点があります。人工膝関節置換術に関しては次号でさらに詳しくお話します。

以上、簡単にご説明しましたが、ご不明な点は整形外科医師にご相談ください。

(文責 真田)